

---

silver lagoon - シルバー ラグーン -

鏡屋

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

silver lagoon - シルバー ラグーン -

### 【コード】

N9386Y

### 【作者名】

鏡屋

### 【あらすじ】

これは銀魂とBLACK LAGOONのクロスオーバーです。

（あらすじみたいなの？）

事は一つの電話から始まる。

その電話は銀時の人生を変えるといつても過言ではない。

新八、神楽から姿を消し、銀時が向かった先は…

見たこともない、ただ青い海が広がる船の上だった。

序章 ドヤ顔してもかっこ悪い奴はかっこ悪い(前書き)

銀時「はい、始めました。銀魂、ブララグ混合小説」

新八「ブララグって…またマイナーですよね」

神楽「そうアル。どうせなら『とある』とか『リリカル』とかにしたら良かったネ」

銀時「それを言うなや。おまツ、バツカ。ほんとバカな」

神楽「誰が馬鹿ネ。それを言うならこんなマイナーな選んだ作者ネ」

新八「…お前ら…カオスになってくるからもう喋んな」

## 序章 ドヤ顔してもかっこ悪い奴はかっこ悪い

「あー、だりい…誰が好き好んで源外のジジイのところにいかにならねえんだよ」

銀髪で死んだ魚のような眼をした男がそうボヤキながら歩く。

その男の名は坂田銀時。…本人曰く『宇宙一バカな侍だコノヤロー』だそうだ。

なぜ銀時がカラクリ技師源外のもとへ向かっているのかと言つと時を遡つて一時間前。

\*\*\*

ジリリリン

「新ぱつつあぁん、電話だぜー？」

「はいはいはい。万屋でーす」

新八は受話器を受け『はい』を繰り返す。

それを聞きながら銀時はジャンプに目を通す。

「…はい、わかりました。今向かわせますんで」

ガチャリと受話器を下す音が聞こえ新八がこっちに向かってくる足音が聞こえた。

銀時はその方向へチラリと目をやる。

「どーしたー？依頼かー？」

「はい。銀さん今から源外さんのところ行ってきてくださいよ」

「は？俺？今忙しいんだけど…見てわからね？」

「何が忙しいんですか！！ジャンプ片手にゴロゴロしてるだけでしょーーーが！！！」

新八はヒステリックに叫んでいる。

突っ込みもここまでくれば引く。というか恐ろしい。

何が新八をここまで変えてしまったのか…。

「銀さんの所為ですよ！！！」

「あーあー、分かったよ、分かりましたよ！！行けばいいんでしょ、行けば！！！」

「最初からそうしてください。まったく」

「さつきから私空気アルなー」

「いたの？」

「糞ダメガネは黙ってればいいネ」

\*\*\*

…と言つことである。

「まったく人使いがあらいつつの！！！！つーか、ゴロゴロなら神楽だつて…」

神楽にそれを言っても返り討ちにあうだけだ。

考えるのは…よそう。それにしても納得がいかない。

「はあ…源外のジジイの依頼なんてぜってえ碌なモンじゃねえよ。今からでも遅くない！引き返そうかな」

そう考えたところでついさつき万事屋を出るとき新八に言われた言葉を思い出す。

『帰ってきたら姉上に銀さんが仕事しない事報告しますから』

…と新八に言われた銀時。源外のジジイの所行って碌でもない依頼を受けるのと

戻って新八の姉、妙にダークマター…真っ黒焦げの可哀想な卵のフルコースを味わうのと  
どっちがいいかと聞かれたら答は明白。

「ジジイ何の依頼だよ。シンプルイズベストだぜ。お願いだから簡単なので」

「店前でギャーギャー騒ぐな！近所迷惑だろーが」

「ジジイ、テメーが言うなポケエエエエエ」

「つか、機械ガシャコンガシャコン動かしてるのによく聞こえたなジジイ。」

「銀の字、オメエにはこの機会の中に入ってほしいんじゃ」

「ハア？俺がこの中に？オイオイ、冗談じゃねえぞ。こんな怪しい機械の中になんて…」

「ポチつとな」

源外のジジイは人の話を聞かず、赤いスイッチを押した。

その途端その機械が物凄い吸引力を發揮した。

銀時は近くにあった机にしがみつく。机はビクともしてない。床に張り付けてあるらしい。命拾いした。

「ちょ、何コレ…新型の掃除機？にしては…吸引力半端なすぎだろーがアアアア！！吸い込まれるううう」

「銀の字イイ、机から手を離せ！！諦めて吸い込まれるオ。そして実験台になれエエエ」

「嫌じゃボケエエエエ…ってヤヴぁーイ。もう銀さん手に力入らねえよ！？」

ベリベリ

「ジジイ ……！！何俺の指一本一本机から剥がそうとしてやがるんだ！！！」

「あと一本…銀の字…チェックメイトだ」

「テメーのドヤ顔なんてかっこよくねえんだよ！！！！糞ジジイイイ」

こうして銀時はからくり堂から…かぶき町から姿を消した。

「主人公大事にしろー！！！！コノヤロー」

序章 ドヤ顔してもかっこ悪い奴はかっこ悪い（後書き）

新八「何とか序章終わったんじゃないですか？」

神楽「解せぬ。実に解せぬアル」

銀時「あ？いいじゃねーの。これから銀さんが暴れる場所へレッツ  
パアライ だぜ」

新八「…違います銀さん。クロスオーバーする原作間違ってます」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9386y/>

---

silver lagoon - シルバー ラグーン -

2011年11月28日00時52分発行